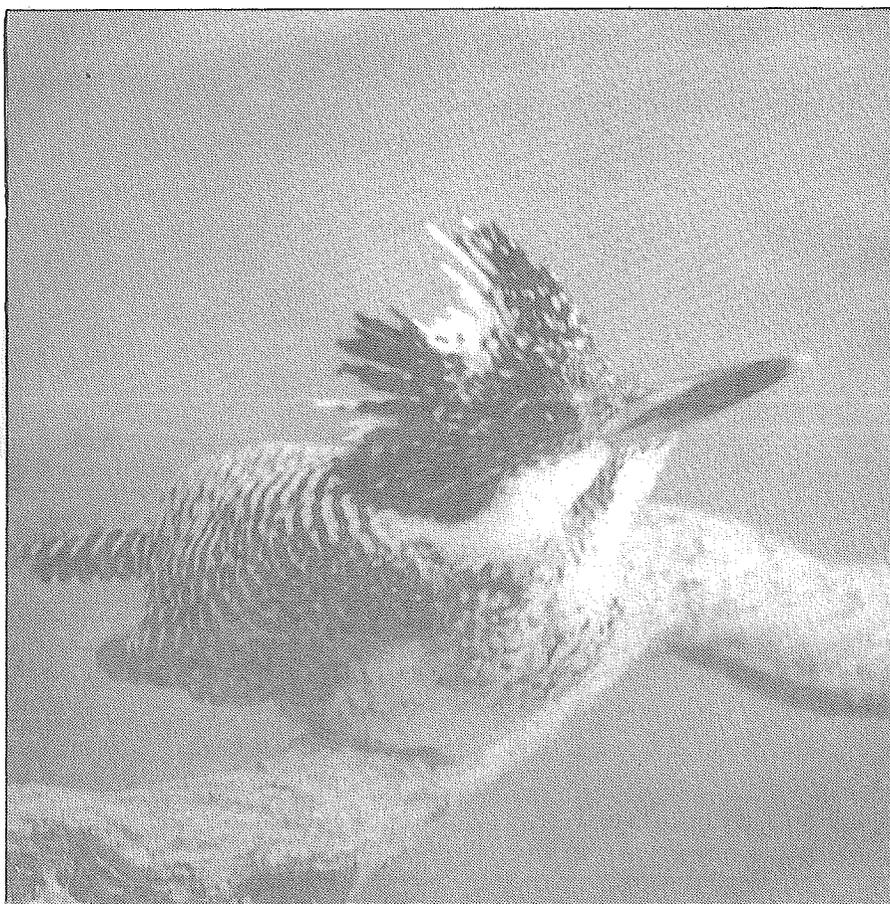


1985・6

第 13 号

しらこぼと

日本野鳥の会埼玉県支部



ツルを救って

ツルは今、危機に瀕している。世界に14種いるツルの半数にあたる7種が、国際自然保護連合の「絶滅に瀕している動物のリスト」に載っている。日本は7種のうち、タンチョウ、マナヅル、ナベツルの3種の重要な生息地となっているが、その将来は必ずしも明るいとはいえない。

北海道東部にはおよそ300羽のタンチョウが1年中生息しているが、湿原が開発などによって狭められている。山口県八代には毎年ナベツルが渡って来るが、飛来数は年々減っている。九州の出水には毎年数千羽のナベツルとマナヅルが渡って来るが、越冬地の過密化と農作物への被害の増加が新たな問題を投げかけている。

(財)日本野鳥の会ツル保護特別委員会はこの状況にある野生のツルを絶滅から守り、人間とツルとのよりよい共存をはかる目的で設立され、活動を続けている。ツル保護募金へは5月7日現在81人から259,430円の寄付がよせられている。しかし、ツルのサンクチュアリの実現を含め、日本に生息する野生のツルを本当に守るためには、今後一層の広報活動と募金活動を広げていかなければならない。皆様方のご理解とご協力をお願いします。



シンボルマーク

ご寄付の送り先は、
郵便振替口座＝東京00－
124894、加入者名＝
ツル保護特別委員会

パネル展に1200人

5月6日から12日までの7日間、所沢市で開催された初のパネル展には、カウントできただけでも1,200人以上の来場者があった。最終日に

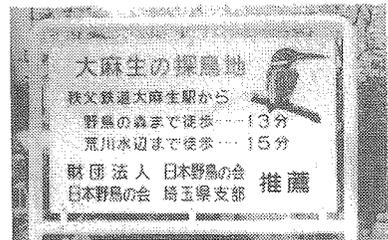


みんなでクイズに挑戦

実施した探鳥会には68名の参加者があり、その場で6名の入会申込があって、その後も続いているなど、その反響の大きさにおどろくと共に、社会的期待と責任の重さをあらためて感じさせるパードウィーク行事だった。(ボランティアの氏名、8ページに掲載)

大麻生駅に看板

秩父鉄道の大麻生駅ホームに看板がたった。県支部がサンクチュアリの設置を働きかけている大麻生の探鳥地を広く県民の皆様にも知らせ、その自然の保護に役立てようと、秩父鉄道(株)の理解を得て同社の費用で設置されたもの。サンクチュアリ推進により一層の力を尽そう。



カワセミの絵は今井明巨幹事が

ヤマセミ(カワセミ科)

赤平川では「やませみ」と平仮名で書くのが似合っている。どうも他の地域のヤマセミほどピリッとしていない。どこかのんびりしている。

秩父で川を歩き白っぽい鳥がいたら「やませみ」だ。人の姿を見るとケケケッと鳴いて

馬鹿にする。魚取りは豪快で、飛び込む時は1mもしぶきをはね上がる。失敗すると1からやり直す律儀鳥だ。

1年中2羽で生活し、3年たっても浮気はしない。赤平川の「やませみ」なんです。

(表紙の写真・丸山政弘、文・豊田 隆)



ココス島のフェアリー・ターン(シロアジサシ)

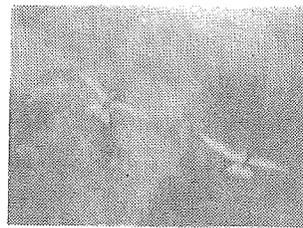
松井昭吾(大宮市)

仕事で時々外国へ行くことがあるので、私はその機会を有効に使うて日本では見られない鳥を見ることを無上のよろこびとしている。出張の時には、双眼鏡とカメラは絶対に忘れられない必需品だ。

フェアリー・ターン、何と優雅な名だろう。しかし、猛禽類が好きで、鳥に対して恐怖など全く抱いたことのないこの私に、初めて恐怖を抱かせたのがなんと、この優雅なフェアリー・ターンであった。

所はグアム島の南に浮かぶココス島、時はまさに6月。私は全く無防備の素っ裸(水泳パンツのみ着用)にカメラと双眼鏡というスタイルで、本来は水泳のリゾートであるこの島を、探鳥のために1周してみようと、めったに人の行かない所まで入ってしまった。いわばアジサシにとっては侵入者だったのだ。気がつくや頭上5・6メートルのところ2・3羽のフェアリー・ターンが、アジサシ特

有のホバリングをしている。次の行動は強烈な急降下攻撃だ。恐怖におののきながらも、さすが筋金入り?のバードウォッチャー。夢中でシャッターを切り、手を振り上げて防ぎ、またシャッターを切った。標準レンズでありながら結構さまになる写真がとれた。初めて私に恐怖心を抱かせたあのフェアリー・ターンは、どう見ても、純で、可憐で、優雅に写っている。純白の体に、黒いつぶらな目、南方の鳥であり、日本ではまずお目にかかれないこの麗しの鳥に、またそろそろ会いたくな



シロアジサシ

ってくる。おそらく、ココス島のほかにグアム島やサイパンでも見られると思う。

次回はその分布について調べてみたいものだ。

釜石の箱根峠で

藤原寛治(志木市)

私は去年の秋に、岩手県の釜石市から、こちらにやってきました。釜石は、最近、ラグビーで有名ですが、陸中海岸国立公園のほぼ真中に位置し、海の鳥、川の鳥、山の鳥とほとんど車で30分以内で行ける場所で見ることができます。運がよければ、ワシやタカはもちろん、シカ、サル、カモシカ、クマ等の哺乳類にも出会えます。

さて、今年の連休、5月5日に、鳥仲間のSさんと釜石にある箱根峠に夏鳥を見に行きました。ここは、他の所よりも夏鳥の渡来が早くて、種類、数とも多く、特にこの時期は、オオルリが多いせいか、密猟も多いという話も聞く場所です。くもり空で風が強いというあいにくの日でしたが、歩き始めてすぐ、そ

の風に負けない声でオオルリがさえずり、1年ぶりの再会を楽しんでいると、すぐそばでキビタキが鳴き始め、その後は風が強くなるにつれてヒガラ、コガラ、ヤマガラ、エナガ、ゴジュウカラ、アオゲラ、ウグイス、ヤブサメ、センダイムシクイ、エゾムシクイ、ミソサザイ、ウソ、ツツドリ、ホオジロ、アオジ、コルリ、カケス、キセキレイなどが次々と鳴きました。オオルリは今年が多いようで、片道6Kmくらいの行程で10羽前後、5mくらいの円の中で3羽が鳴いているということもありました。番外で、カモシカとテンがでて、テンとヤブサメをじっくり見られるというラッキーな日でした。

目 に 青 葉

田 村 照 治(寄居町)

萌黄色に包まれた家のまわりの見なれた山も、いつのまにか新緑になり驚いてしまう。

朝もしらじらと明けそめるころ、コジュケイが雌を呼ぶ声が静けさを破る。キョー、キョー、オー。続いてチョットコイ、チョットコイと呼びつづける。これでは雌も春眠をむさぼるわけにもいきまい。

秩父山脈の末端であるこの鐘撞堂山も、5月に入ると南の国からサシバが渡ってくる。晴れ渡った空にキーミー、キンミーと輪を描く姿に、季節を敏感にとらえる鳥たちの正確さに感心する。オオルリや、キビタキも時を同じくしてやってくる。小鳥たちの恋歌ににぎやかだ。ホトトギスも、もうすぐやってくる。

「目に青葉、山ホトトギス、初ガツオ」の句に、すべてのものに句(しゅん)があり、句の味は素晴らしいと思う。古来日本人は句

を大切にしてきたものだが、最近では自然の句を忘れ、かえりみられなくなってきた。人工を加えすぎて自然の摂理を狂わせているわけで、食べ物や句を忘れ、句の味を忘れ、自然の摂理を忘れてしまっている。そして自然の中で育まれ養われている自分を忘れてしまっているのではないだろうか。

小鳥たちは毎年同じ季節に渡ってきて巣作りをし、雛の飼育に困らないようにしている。今まさに、林の中で小鳥たちがそれぞれ大切な巣作りの季節に入った。自然の摂理の中で生き続ける小鳥たちよ、自分たちの句を大切に。



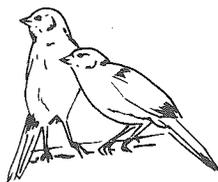
カット：田村照治

あ り が た い 身 近 な 情 報

日 笠 達 夫(東京都東村山市)

本部を通じて入会したら、早速『しらこばと』の4月号を送ってもらった。少し間を置いて5月号も届いた。支部創立1周年、会員500余名と知った。また、所沢市北部地区の探鳥会や新所沢でのパネル展のこと。

もっばら、わたしは狭山丘陵一帯をホームグラウンドとして探鳥を楽しんでいる。狭山丘陵は埼玉県と東京都にまたがっているので、東京支部に入っているものの、埼玉県側からの情報も欲しい。そんなことから、埼玉県支部に加入した。この狭山丘陵は四季折山の山林の鳥のほか、狭山湖・多摩湖がある関係で水鳥も数多



カット：白戸政枝

く見られる。それに荒幡富士に登れば、関東平野が360度展望できることなどすばらしいところだ。

フィールドノートを付けだしてから、今年で4年目、現在92種。だが、種類はその後なかなか増えない。当面100種類を目標にしているものの、支部報の誌名のシラコバトもまだリストに載っていない。あこがれのサンコウチョウもこれからだ。出来ることならホームグラウンドでフィールドノートの100番目の鳥として、サンコウチョウを記録したい。そう思って、暇を見つけては地元の狭山丘陵へ出掛けている。

ホームグラウンドと称しているだけに、狭山丘陵にかかわるさまざまなことを知りたい。自然のこと、野鳥のこと、探鳥会のこと、パネル展のこと。これからも、こんな身近な情報をどんどん掲載して欲しい。

北 本 だ よ り

田 中 智 恵 子 (北 本 市)

私の住んでいる所は人口5万7千余りの小さな市で、家は駅から近い市街地です。昨日思いがけずコジュケイの声を聞きました。耳をうたぐった程です。10数年来この地でこの声を耳にしていないので本当にびっくりしたと共に、あれから随分家の周りに樹々が無く

なっているのをしみじみ淋しく思いました。今年も、カッコウの声で目をさますころとなりました。この地ではほんの3日程しか聞けないのですが、いつも止まるけやきのこずえに向けて望遠鏡をセットし、ベッドもその部屋に移しました。



- トラフズク ◇3月14日～4月13日 桶川市川田谷で5羽。(長野博行)
- ツルシギ ◇3月29日浦和市秋ヶ瀬で冬羽の2羽(埼玉野鳥研)
- ムナグロ ◇4月5日杉戸町遠野で1羽。(秋間利夫) ◇4月7日大宮市深作沼で1羽。(中島康夫) ◇4月21日浦和市大間木で11羽。(為貞貞人) ◇5月3日浦和市国昌寺近くで5羽。(大武昭雄) ◇同日加須市馬内地区で3羽。(鎌田健一)
- アカハラ ◇4月7日浦和市秋ヶ瀬公園ピクニックの森で1羽。(松井昭吾、石井智、西城戸司) ◇5月1～4日大宮市日進町で1羽。(森本国夫)
- マヒワ ◇4月7日浦和市秋ヶ瀬公園子供の森で40羽以上。(松井昭吾、石井智、西城戸司) ◇4月24・25日浦和中尾で30羽以上。(草間和子)
- コムクドリ ◇4月9日浦和市秋ヶ瀬公園ピクニックの森で1羽。(埼玉野鳥研) ◇4月23日秩父市上町の巣箱につがいが入った。(豊田隆)
- イワツバメ ◇4月10日北朝霞駅前で2羽。(海老原美夫) ◇4月29日熊谷市荒川大橋上流で5羽。(榎本秀和)
- カワガラス ◇4月10日春日部市赤沼の古利根川で1羽。(関根和行)

カワウ ◇4月13日越

谷市平方の古利根川

で70羽。(関根和行)

ゴイサギ ◇蓮田市黒

沼近くで300羽以上

のコロニー。(中島

カット：白戸政枝

康夫)

ヤマシギ ◇4月15日浦和市秋ヶ瀬公園子供の

森で(埼玉野鳥研)

ミヤマホオジロ ◇4月19日秩父市羊山公園

で♂1羽♀2羽。(豊田隆)

センダイムシクイ ◇4月21日浦和市大間木

で2羽。(為貞貞人)

オオジシギ ◇4月21日本庄市阪東大橋下流

で1羽。(萩原昭二)

ノビタキ ◇4月21日本庄市阪東大橋下流で

夏羽♂♀各1羽。(萩原昭二)

アオバズク ◇4月27日熊谷市高城神社で。

(今井昌彦)

オオヨシキリ ◇4月27日大宮市中釘で1羽。

(森本国夫) ◇同日、桶川市川田谷で。

(長野博行) ◇4月29日浦和市秋ヶ瀬で。

(場谷内ルミ子ほか) ◇5月1日柳瀬川

駅前で。(藤原寛治) ◇5月3日浦和市

国昌寺近くで2羽。(大武昭雄)

キジ巢立ち ◇4月28日浦和市野田小学校近

くで巣ごもりしていたが、5月3日には巢

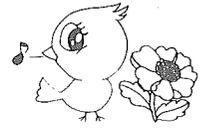
立っていた。(大武昭雄)

ツバメチドリ ◇4月29日浦和市秋ヶ瀬で1

羽。(藤原寛治、小荷田行男、森本国夫)

アカエリヒレアシシギ ◇4月29日浦和市秋

ヶ瀬で♂1羽。(藤原寛治ほか)



キョウジョシギ ◇4月29日熊谷市熊谷大橋上流で5羽。(豊田隆、榎本秀和、今井明巨) ◇5月3日幸手町上吉羽で2羽。(秋間利夫)

チュウシャクシギ ◇4月29日大宮市深作調整池付近の水田で1羽。(中島康夫、郁夫)

メダイチドリ ◇4月29日大宮市深作調整池付近の水田で1羽。(中島康夫、郁夫)
エゾムシクイ ◇4月30日熊谷市報恩寺で。(鈴木忠雄)

バン ◇5月1日浦和市白幡沼で幼鳥2羽。まるで黒い糸糸玉。(海老原美夫)

探鳥会報告

4月21日(日) 浦和市 三室地区

△ 60人 天気 快晴 鳥 コサギ カルガモ コガモ コチドリ タカブシギ タシギ キジバト ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ サンショウクイ ヒヨドリ モズ ツグミ ウグイス セッカ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ マヒワ スズメ コムクドリ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス(30種) 今年初めてのコムクドリや、ここでは珍しいマヒワとサンショウクイも見られた。

4月22日(月) 大井野鳥公園

△ 15人 天気 曇 鳥 カイツブリ カワウ ゴイサギ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ オカヨシガモ オナガガモ ハシビロガモ キンクロハジロ スズガモ トビ バン オオバン コチドリ イカルチドリ タシギ ユリカモメ セグロカモメ キジバト ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ツグミ セッカ シジュウカラ ホオジロ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス(38種) カモたちに最後のお別れ。ユリカモメも頭の黒い夏羽になった。今年はこちらとシギ・チの訪れが遅いようだ。

4月28日(日) 熊谷市 大麻生

△ 29人 天気 曇 鳥 ダイサギ コサギ カルガモ コガモ サシバ コジュケイ キジ イカルチドリ イソシギ ユリカ

モメ キジバト ツツドリ カワセミ ヒバリ ツバメ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ツグミ ウグイス セッカ オオルリ シジュウカラ メジロ

ホオジロ カシラダカ カワラヒワ シメスズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス(33種) オオルリの美しい姿に皆うっとり。ツツドリも現われて、大麻生は夏鳥の季節。



オオルリ・大麻生探鳥会

5月3日(金) 寄居町 鐘撞堂山

△ 42人 天気 晴 鳥 カイツブリ サシバ コジュケイ キジ キジバト アオゲラ コゲラ ツバメ キセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ ヤブサメ ウグイス センダイムシクイ キビタキ オオルリ エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス(28種) キビタキはすばらしい声でさえずり。4羽のサシバがビッキイーと鳴いて舞う。そして、オオルリのさえずりも。

5月12日(日) 所沢市 北部地区

△ 68人 天気 快晴 鳥 コジュケイ キジ キジバト コゲラ ヒバリ ツバメ ヒヨドリ センダイムシクイ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ イカル スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス(17種) 雑木林を渡る心地良い風の中を楽しく歩いた。イカルが美声をたっぷり聞かせて、姿も見せてくれた。



野鳥や自然の好きな方、どなたでも歓迎。
受付は探鳥会当日です。予約申込みは必要

ありません。

筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば
双眼鏡（なくても大丈夫）などをご用意く
ださい。小雨決行です。

参加費は、一般＝100円、会員と中学生以
下＝50円

6月16日(日) 浦和市 三室地区 (浦和
市立郷土博物館共催) 参加費無料

午前8時15分北浦和駅東口または午前9
時郷土博物館前集合。午後1時ごろ解散。
巢立ちの季節、ツバメ、ヒヨドリ、ハクセ
キレイなどの親子が見えるか。(担当・楠
見邦博)

6月23日(日) 越谷市 増林地区

午前9時30分東武鉄道北越谷駅東口集合
(南浦和8:56発→南越谷9:08着→東武鉄
道乗換新越谷9:21発→北越谷9:26着/
北千住8:51発→北越谷9:26着/春日部
8:59発→北越谷9:19着)午後1時ごろ解
散。県支部のシンボルバード、シラコバト
を見る。県東部で初の探鳥会。雨がふら
ないように祈ってください。(担当・山部直
喜、海老原美夫)

6月24日(月) 大井野鳥公園

午前9時品川駅港南口改札前集合(集
合場所が変わりました)バスで大井野鳥公
園へ。午後1時頃解散。コアジサシ、ヨシ
ゴイ、オオヨシキリなど。(担当・佐々木
勉)

7月7日(日) 北本市 農事試験場跡地

午前9時高崎線北本駅西口集合(浦和8
:27発→大宮8:33発→北本8:51着/熊谷
8:20発→北本8:39着)午後2時ごろ解
散。七夕のこの日、サンバとサンコウ
チョウに会いに行こう。カッコウやオ
オヨシキリも鳴いています。(担当・長
野博行)

7月14日(日) 寄居町 荒川と鉢形城跡

午前9時寄居駅南口集合(大宮7:25
始発→熊谷8:09着→秩父鉄道乗換
8:28発→寄居8:56着/東武東上線志
木7:38発→川越7:50発→森林公園
乗換→寄居8:45着)午後2時ごろ解
散。ササゴイなど。運が良ければヤ
マセミやカワセミの親子連れも。
(担当・田村照治、石井生高)

7月21日(日) 浦和市 三室地区 (浦和
市立郷土博物館共催) 参加費無料

午前8時15分北浦和駅東口(熊谷7:19
発→大宮8:02→京浜東北線乗換)また
は午前9時市立郷土博物館(市立病院
入口付近)の前に集合。午後1時ごろ
解散。真夏の見沼田圃で、カルガモ、
コチドリ、インシギ、ホオジロ、カ
ワラヒワなど。(担当・楠見邦博)

7月28日(日) 熊谷市 大麻生

午前9時30分秩父鉄道大麻生駅集
合、(浦和8:10発→熊谷8:59着→秩
父鉄道乗換9:09発→大麻生9:18着/
秩父鉄道寄居9:12発→大麻生9:32
着)ササゴイ、イカルチドリ、コア
ジサシなど。カワセミの夫婦はどう
したかな。楽しみいろいろ。
(担当・鈴木忠雄、堀越照雄、今
井明臣)

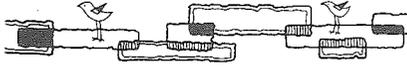
6月16日(日)～6月23日(日)日本野鳥展
寄居町商工観光課共催 入場無料

寄居町勤労福祉センター(電話0485-
81-5188)で、毎日午前9時から午後5
時までパネル展とジグソーパズル。16
日と23日の日曜日には、野鳥のお話、
落書コーナー、野鳥の数あてクイズ
(正解者にはプレゼント)、映画、ス
ライドともりだくさんの企画で皆様
のおいでをお待ちします。

8月4日(日) スライドとバードカー
ピングの集い

午前9時40分寄居駅集合(熊谷9:
09発→寄居9:36着)午後3時ごろ解
散。すずしい部屋でスライドと簡単
なバードカーピングを楽しもう。参
加費300円(中学生以下100円)小
刀とサンドペーパーを各自ご用意
ください。参加したい方とスライ
ドを出品したい方は、7月14日
までに石井生高まで申し込
みを。

連絡帳



総会のお知らせ

日時・昭和60年6月9日(日)

午後1時30分～3時30分

場所・埼玉県熊谷福祉センター

議題・昭和59年度事業報告および決算について、昭和60年度事業計画および予算について、役員を選出について、その他。

くわしくは5月号をご覧ください。事務局までお問い合わせください。より良い支部のあり方について、あなたのご意見をどうぞ。

大型寄付にお礼

現在行われている県内野鳥分布調査について5月10日付の埼玉新聞に記事が掲載されたところ、それを見た埼玉県信用農業協同組合連合会(松本敏夫会長)から「野鳥保護は農業の基本である自然環境の保全につながる」との事で、10万円の寄付申込みがあり、埼玉新聞社を通じて手渡されました。その金額もちろんうれしい事ですが、農業関係者の方から、野鳥と農業の関係について正しい認識を示された事が、何よりもうれしい事でした。

又、東京都練馬区の栗野義光さんからは、昭和45年1月号から昭和58年12月号まで、14年間分168冊に及ぶ「野鳥」誌のバックナンバーが段ボール箱にいっぱい送られて来ました。大変貴重な資料で感激しております。

共にこれからの私たちの野鳥保護活動に十分に役立たせていただきます。ありがとうございました。心からお礼申し上げます。

題字「しらこぼと」：日本野鳥の会会長・山下静一

『しらこぼと』

1985年6月号(第13号) 頒価100円(会費に含まれます)

発行人 今井昌彦 発行所 日本野鳥の会埼玉県支部

発行所事務局 〒336 埼玉県浦和市岸町4丁目26番8号プリムローズ岸町107号

電話0488(32)4062

郵便振替 東京9-121130 銀行振込口座 埼玉銀行浦和支店普通預金316990

印刷所 埼玉印刷株式会社

パネル展ボランティア

(50音順)新井清子、五十嵐輝雄、石井智、伊藤雅子、海老原教子、海老原美夫、楠見邦博、楠見文子、栗本宣敏、多田孝、中島康夫、西城戸司、場谷内純一、場谷内ルミ子、森本国夫、山部直喜(16名)ごくろう様でした。

西友小手指店で野鳥教室

5月19日、西友小手指店でバードウォッチング入門の野鳥教室を開き、400個くらいのヒマワリの種パックやミニサンクチュアリパンフレット、支部紹介パンフレットなどを配布。その日のボランティアは、(50音順)海老原美夫、草間和子、多田孝の3名でした。

秩父愛鳥会に環境庁長官賞

秩父愛鳥会(宮崎章次会長)の20年間に及ぶ野鳥保護活動に対し、環境庁長官賞がおくられました。宮崎会長をはじめ会員の皆様のご努力には心から敬服しています。本当におめでとうございました。

夏鳥調査はがき続々到着

夏鳥調査の報告はがきが、次々と事務局に届いています。あなたのご自宅の近くだけでも良いのです。どんな鳥がどのくらいいるかを見て、はがきを出していただけませんか。はがきはまだ少し余分があります。ご希望の方、ご連絡ください。

会員数

5月20日現在で525名です。

(無断転載を禁じます)